



クリーンニュース

労働災害「墜落・転落」防止

ハーネス型安全帯の特徴

現状の日本の市場では、安全帯と言えば胴ベルト型安全帯を指すぐらい定着しています。

しかし、欧米では、安全帯と言えばハーネス型安全帯が規格化され使用されています。

ハーネス型安全帯は胴ベルト型安全帯に比べ、墜落阻止時に体の主要部分(腿・胴・肩)に衝撃荷重が分散され、身体に加わる負担が少ないといわれています。

胴ベルト型安全帯の場合、写真1に示すように、作業者の体形が“への字”状態になり胴部一か所に荷重が集中し、約1分程度で呼吸が苦しくなります。

一方のハーネス型安全帯の場合は、被験者の体を複数のベルトで支持するので体形が直立し呼吸が苦しくなることはないそうです。

一度、ハーネス型安全帯を使ってみませんか？

担当 中島



写真1 宙吊り試験
(胴ベルト型安全帯)

写真2 宙吊り試験
(ハーネス型安全帯)

自動車ニュース

排気ガスが黒いと思ったら！！

排気ガスが黒いと、環境汚染や公害問題になりますので、早急に処置を施して下さい。

「吸入酸素量不足」の場合
ディーゼルエンジンでは、吸入された空気は、燃料に使われるばかりでなく、空気を圧縮して得た高温で、燃料に着火させる働きもします。したがって、吸入する空気量は2重に悪影響を及ぼすこととなります。

処置

エア・クリーナの清掃をします。
エア・クリーナのつまり具合は大・中型トラック・バスでは、ダストインジゲータでわかります。ダストインジゲータの透明部に赤シグナルが出たら清掃時期が来ていることを示します。



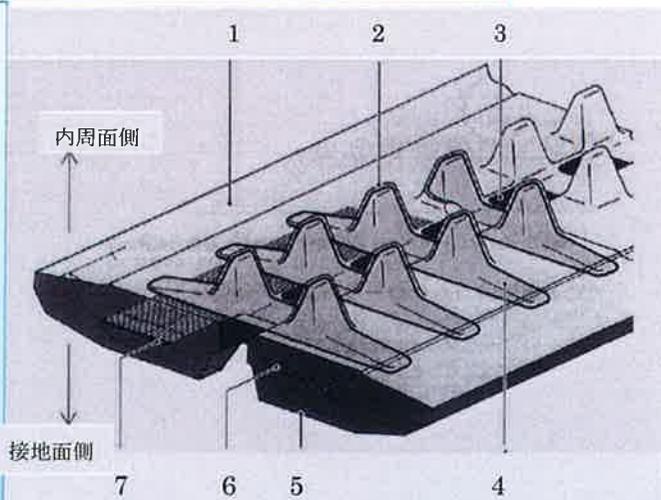
ここにあげられている他の項目を点検してなお黒煙が出る場合は、噴射ポンプかノズルを調べる必要があります。これは当社におまかせ下さい。

担当 藤森

一体型ゴムクローラベルトの構造

ゴムクローラベルトは、ラグの部分に芯金を埋め込み又長手方向にはスチールコードを埋め込んで強度を確保し、ゴムで被覆してエンドレスのベルト状に一体成型したものです。芯金は起動輪の駆動力を直接受けてベルトに伝えて車体に推進力を発生させると同時に、地面からの反力をゴムを介して受けてトラックローラーに伝えて車体を支え、またベルトの横方向の力を各転輪に伝えてベルトが車輪から外れるのを防止するベルトガイドとしての働きもしていて、きわめて重要な部品です。

担当 若林

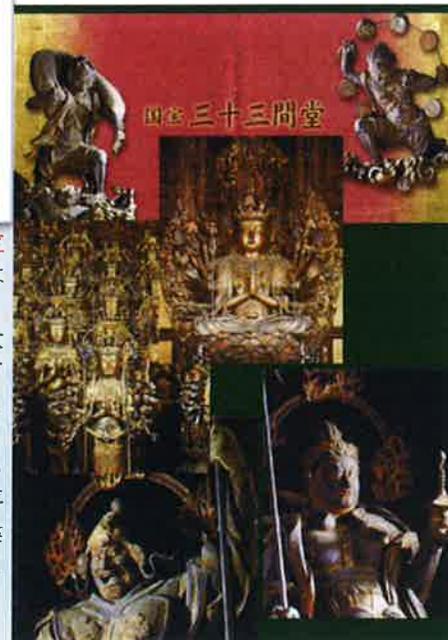


- 1.カバーゴム
- 2.外れ防止突起
- 3.スプロケット穴
- 4.プレート(芯金)
- 5.ラグ
- 6.中間キャンパス
- 7.スチールコード

編集後記

猛暑の最中に京都の寺を巡ってきました。国宝三十三間堂は、小学校の修学旅行では行ったはずですが、あまりにも月日が経ちすぎたもので、すっかり忘れていました。まずは本堂の大きさ長さにびっくりしました。次に中に入るとは、千手観音坐像と前後10列の階段状の壇上に整然と並ぶ等身大の1000体の観音立像は圧巻で、室内はさながら“仏像の森”といったところでしょうか。今年は大河ドラマで『平清盛』を放送していますが、三十三間堂を創建したのがまさに平清盛であると聞いて、ますます歴史を身近に感じる事ができました。

担当 八木



建設ニュース